



## 目次

- P.1 新年度の様子  
 ・セントレアで新入生セミナー！  
 ・留学生と一緒に学ぶ
- P.2 国際フィールドワークの報告（1年生科目）  
 ・フィリピン研修  
 ・マレーシア研修  
 ・カンボジア研修  
 ・インド研修
- P.4 国内外でのアクティブラーニング活動報告  
 ・「日本の粗大廃棄物はどこへ？フィリピン北部でのFW」  
 ・「自己肯定感を育てる村づくり：加子母での調査」  
 ・「韓国全南大学でのシンポジウム参加を通じて」  
 ・「ミンダナオ国際大学で英語研修の参加と日本語授業の見学」
- P.5 海外インターンシップ
- P.6 ふくし AWARD 受賞者  
 海外留学報告  
 2018 年度最優秀卒業論文賞受賞者
- P.7 卒業生の活躍（旅行業、英語教員）
- P.8 本学部の進路紹介  
 2018 年度 東海キャンパスのオープンキャンパス予定

## 新年度の様子

セントレアで  
新入生セミナー！

空港内でのアクティビティで  
教員からのクイズ問題を熱心に解いている新入生たち

## 留学生と一緒に学ぶ

国際福祉開発学部は今年の新一年生のうち、ベトナム、中国、ネパール、タイ、フィリピンからの留学生 12 人を迎えました。

入学直後のオリエンテーションのときから、留学生の皆さんは毎日大量に提供される日本語の情報を処理するのに格闘している間、日本語教育プログラムを受講している新 2 年生約 20 人がサポーターとして立ち上がってくれました。諸々の書類の記入、履修登録のアドバイス、また大学の勉強の手伝いをし、日本語学習者に対してどのようにコミュニケーションをとるか、やさしい日本語を使ってどのように複雑な話をわかりやすく説明するかについていろいろ挑戦しました。皆さんのおかげで、留学生はとてもいいスタートを切ったようで、やる気满满で授業に取り掛かることができました。これから週 1 回、2 年生と一緒に日本語教育センターで留学生の学習サポートが続く予定です。興味のある方は一度遊びに来てください！



グローバルラウンジで、サポート学生が履修登録を手伝っている場面



留学生の最初の日本語の授業風景

## 国際フィールドワークの報告（1年生科目）

## フィリピン研修 「人間中心」の目線で



今年のフィリピン研修は初めて担当教員として責任をもたせていただき、貴重な体験をしました。

フィリピン大学（UP）社会福祉・地域開発学部に企画していただいていた研修内容は本当に盛りだくさんでした。大学を中心に座学の機会も、マニラ周辺で活躍している組織への訪問も、農村地域でのフィールドワークも、いろいろな観点からフィリピンの現状を教えてくださいました。様々な組織や仕組みや規則の中で展開されるフィリピンのソーシャルワークですが、UPの皆さんは常に「人間中心」の目線で社会の課題に取り組んでいらっしゃる姿勢は素晴らしいと思いました。

今年の研修メンバーは本学の5つの学部を跨ぎ、事前

担当教員 カースティ祖父江

研修まで互いに面識はありませんでした。それにもかかわらず、研修中は仲良く付き合い、励まし合い、応援し合ってくれました。学生の半分にとってフィリピンは初外国だったので刺激が大変大きかったと思いますが、何事も前向きに取り組む姿はとても格好よかったです。また、1週目の研修を終えたところで学生が体験するホームステイから帰ってくる皆さんの顔は本当に一段と大人になっていたのを見てとても嬉しかったです。

今年のフィリピン研修に関わってくださり、サポートして下さった皆さんに大変感謝を申し上げたいと思います。素晴らしい学びや諸々の活動を体験できました。



## マレーシア研修

### Overcoming Obstacles

The 2017 Malaysian Fieldwork program took place from Sunday, February 11th to Monday, February 26th, 2018. Our group consisted of 13 students from the International Welfare Development (IWD) faculty and one care taker. This program gives students many opportunities to grow as responsible members of a global society. The program consisted of lectures, visits to a variety of organizations, companies and places of cultural significance, and activities with the USM buddies. In addition, they tried traditional art activities. Through this experience, our students were able to widen their perspective; come to better understand, through direct interaction, foreign cultures, and their place in a global society as well as develop the skills to interact within foreign cultural surroundings and communicate their thoughts and ideas clearly.

The students said that they now have a much better idea about the lifestyles and customs



担当教員 Gary Kirkpatrick

of Malaysia from their home stay and other activities. They feel they have a basic understanding of the history of Malaysia and have gleaned some insight into how such a diverse society of people can live and work together in harmony from the lectures and visits. The many occasions where they communicated with their host families and with the USM buddies also tested the limits of their English and showed them where they need to improve in order to be able to function more successfully in a foreign country. Finally, and most importantly, they have made friends and developed bonds with many Malaysian people.

## カンボジア研修

担当教員 中西 哲彦

### 開発援助、国際協力についての研究への布石



2月11日夕刻、プノンペン到着後、そのままクラタペッパーに直行し、倉田浩伸様はじめプノンペンを拠点に活躍されていらっしゃる東海地区出身の皆様との交流から、今回のフィールドワークは始まった。日本カンボジア人材育成センター、王立プノンペン大学、パンニャサストラ大学（シムリアップ）の三ヶ所で大学生と交流、二つの孤児院、くっくま孤児院、スナーダイクマエ孤児院を訪問、貧困層に対する援助を続けている二つの団体、IKTT クメール伝統織物研究所、かものはしプロジェクトのコミュニティーファクトリーを訪問、教育の分野では、3つの学校、Bayon 中学校、Porlanka 小学校、Kok Kreul 小学校と、シムリアップ教員研修センターを訪問、経済産業分野では、プノンペン経済特区内のスーンウェスト、シムリアップにあるフレッシュフルーツ

ファクトリー、アンコールクッキー、キャンディーアンコールを訪問した。農村を訪れ、二つの井戸の寄付も行った。私にとって、学生を引率しての海外フィールドワークはこれが最後となる。貴重な2週間、一時も無駄にさせないよという鬼の心で訪問先を選定し、旅程をつくった。事前の調査、現地の訪問、振り返り、という3段階を経て、学生たちは、今後の専門分野での研究に向けての基盤を築いてくれたと思う。今後、キャンパスでの学びと、実際に、アジア各地に足を運ぶことで、開発とは何か、援助するとはどんなことなのか、人の幸せとは何かなど、様々にテーマを定めて、学びを深めて行ってくれることを願っている。



## インド研修

担当教員 斎藤 千宏

### 南インドで異文化体験と企業のグローバル展開の学び



10名が参加したインド研修は、南インドのカルナータカ州の農村部にある「インド国際子ども村ハッピーバリー」（宿舎）に10日間の滞在、そして世界のIT産業の中心となっているバンガロールでの3日間の見学と、2週間にわたり様々なプログラムをこなしました。

ハッピーバリーは大神のりえマニカト夫妻が子供たちの国際交流の場とするべく28年前に開設、これまでも本学のインド研修では毎回お世話になっている施設です。参加学生たちはここに滞在して地元のカレッジ学生および高校生たちと交流しながら、彼／彼女らの家で3日間のホームステイもしました。限られた水使用や慣れ

ない食べ物、トイレなど得難い異文化体験となりました。また地域保健センターや牛乳生産協同組合の工場などを訪問し、ごくふつうのインド農村部の社会経済事情を見ることができました。

その後バンガロールに移動して、トヨタインドの本社工場や、IT企業が林立する地区にある「さくらホスピタル」（豊田通商とセコムが経営する病院）への訪問を通して、グローバルに展開される企業活動とそれに乗っかって高い経済成長を遂げているインドの生の姿にも学びました。

最後に今回の研修では、ハッピーバリーでの食事がスパイスの量が少なかったこともあってか、お腹をこわす学生が出なかったことを記しておきます。



## 国内外でのアクティブラーニング活動報告

## 日本の粗大廃棄物はどこへ？

国際福祉開発学部 3 年（千頭ゼミ） 前川 岩基（南山国際高等学校）

昨年からは本格的に始まったアクティブラーニング期間を利用して、現在、フィリピン北部の町で約半年間フィールドワークを行っています。皆さんは、日本の廃品回収業者を目にしたことがありますでしょうか？自宅近辺を軽トラックで回り、使わなくなった家具、テレビ、パソコン、バイクなどを無料で回収する業者があります。私は、常々疑問に思っていたことがあります。日本では、ゴミを捨てるのにお金がかかるにも関わらず、廃品回収業者は、無料で引き取ってくれます。なぜ無料で引き取れるかその実態を、フィリピンで調査して初めて分かりました。廃品回収業者は、集めた廃品を大型コンテナに乗せて、フィリピンなどの国で売りつけていました。確かに、日本で使わなくなった家具などは、再利用することができ環境にも良いでしょう。しかし、問題も多々あります。廃棄するのに困難な、自動車のバッテリーなども大量に運ばれてきます。一見、聞こえはいいと思いますが、日本の廃品回収業者は、「ゴミ」も一緒に送りつけているという実態です。日本の中古品を販売している



運ばれてきた日本製品を競り落とすオークション会場

現地の会社で働きながら、運び込まれた日本の粗大廃棄物の行方を調査したり、廃棄物として運ばれた JAPAN ブランド製品を購入する顧客にインタビューしながら、活動を続けています。

## 自己肯定感を育てるむらづくり、加子母での調査

国際福祉開発学部 4 年（千頭ゼミ） 前田 雅光（愛知県立鶴城丘高等学校）

千頭研究室では毎年、中津川市加子母地区で「持続可能なむらづくり」をテーマに掲げて活動しています。2017 年度は、9 月にゼミ 3 年生全員が、移住者を迎えることのできる要因分析や地域の教育力などに関わって、それぞれの調査テーマを持ち、約 1 週間のフィールドワークを実施しました。移住者の方へのインタビューでは「他地域から来た者の活動や生活を応援してくれる対応力と体制に惹かれ加子母に定住したくなる、人と人との間に信頼を得るスピードが早く、一人の地域住民としての発言力を大事にしてくれる、加子母に対する篤い思いにふれ、加子母を良くしたいという意志が生まれてくる。」と語っていただきました。調査を通じて感じたことは、地域ぐるみで育てられた子どもがやがて成長して次の世代を育てるというサイクル、地域づくりを自分事と考え、自分が動けば加子母が変わると思う自己肯定感が加子母の地域力であるということでした。

また 11 月には、加子母中学校 3 年生と、地域の未来、自分の将来を考えるワークショップを企画運営しました。加子母の子どもたちが、地域の良さや課題についてよく学び、考えていることを知り、大学生として逆に刺激をいただいたワークショップでした。この成果は、12 月の立志式での子どもたちの発表にもつながっていきました。これら活動を通じて、私達も加子母の方々のように、自分事としての主体性と自己肯定感を持ち、地域づ

くりに関わっていきたくとか考えています。



移住者の方へのインタビュー風景



加子母中学校でのワークショップ終了時の集合写真

## 韓国全南大学でのシンポジウム参加を通じて

国際福祉開発学部3年(佐藤ゼミ) 松田 聖生(中村高等学校)

11月後半から12月前半にかけての8日間、韓国で海外研修を実施しました。全南大学で行われるシンポジウム参加が主な目的でしたが、韓国の全南大学、中国の温州大学の学生、教員との交流も行いました。その交流では、ただ仲を深めるだけでなく、それぞれの国について思うこと、または疑問に感じることを話し合うことができ、非常に充実した学びの機会にもなりました。もちろん、シンポジウム自体からも多くの成果を得ることができました。海外をフィールドに学びを展開できた自分に確かな自信を持ちつつ、反省すべき点も謙虚に受け止め、国内外関係なく今後にか

けていきたいと思っています。



## ミンダナオ国際大学で英語研修の参加と日本語授業の見学

国際福祉開発学部3年(吉村ゼミ) 川瀬 麻鈴(大垣南高等学校)

私はアクティブラーニング期間中、フィリピンに約1か月間滞在し、様々な経験をしました。今回のプログラムはミンダナオ国際大学(以下MKD)での活動がメインでした。前半は英語研修を行いました。MKDの学生と一対一のバディとなり、毎日3コマの授業で非常に内容の濃い時間を過ごすことができました。同年代の彼らの英語力に加え、何事に対しても前向きに、アグレッシブに行動する姿に感心するとともに、私たちも見習わないと!と良い影響を与えてもらいました。後半はMKDの日本語授業の見学と日本語のプレゼン作成を学生と共に行いました。ここでも彼らのプレゼン能力の高さに圧倒されました。この研修

は今後の学生生活や社会人となって自分が何をしたいのか考えるきっかけになりました!



## 海外インターンシップ

### シンガポールで1ヶ月のインターンシップ

国際福祉開発学部4年(張ゼミ) 前田 真利(愛知県立小坂井高等学校)

私は昨年の夏休みを利用して、シンガポールのIT企業へ1ヶ月間のインターンシップを行いました。グローバルな環境でビジネスを学ぶこと、IT分野が進んでいるシンガポールで、まだ日本では発展していない分野を学ぶことを目的として挑戦しました。

企業の事業内容は、住宅やオフィスにIoT要素を加え、AIを用いてオートメーション化するというサービスを提供しています。その中で私は、セールス&マーケティングを担当し、主に新規顧客開拓に努めました。常に、やるべきことやスケジュール、プレゼン資料など全て自分で考え、行動しなければいけなく、最初は大変でしたが、積極的に行動していくことでやりがいを感じました。主に行ったことは、電話・メールでの営業活動、ビジネス展示会での出展活動、SNSページ作成など様々なことをしました。また積極的に行動したことで、IBMの方、

Microsoftの方と行動する機会も得られ、世界で働くビジネスマンの考え方を聞くこともできました。

この経験から、一番学んだことは、「恐れず、好奇心



中小企業が集まるビジネス展示会にて

を持って自らチャレンジし続けることの大切さ」です。受け身になっていては、何も学ぶことはできないので、これからも失敗を恐れず何事にも挑戦していきたいと思

います。前向きな失敗を怒られることはないので、学部のみみんなも結果は気にせずに様々なことに挑戦していただきたいと思います。

## ふくし AWARD 受賞者

### 「学んだことを実際に行う」

ふくし AWARD とは、学内プレゼンテーションコンテストであり、2017 年度は応募 37 作品の中から最終審査に残った 8 作品（英語部門 4 作品、日本語部門 4 作品）だけが当日に発表することとなりました。私たちのチームは英語部門にエントリーをし、最終審査まで残ることができました。日本の高齢化社会に着眼点を置き、「Elderly Care Problem」というテーマで発表し、結果として奨励賞（3 位）を頂きました。プレゼンテーションの授業を頑張ったからこそ、このような成果を出すことができ嬉しく思います。しかし、反省や後悔もたくさんあるのでこの結果に満足せず、今後のレベルアップに生かしていきたいと思ひます。大会を通して、学んだことを実際に行ってみることはとても大切なことだと気づかされました。今後もこの

#### 国際福祉開発学部 2 年 伊藤 優作（大府高等学校）



ような機会を無駄にせず、仲間たちと切磋琢磨していきたいと思ひます。

## 海外留学報告

### 「My experience of studying abroad in Toronto」

#### 国際福祉開発学部 3 年 石原 果奈（至学館高等学校）

I studied in Toronto at a language school called "OHC" (Oxford House College) for approximately 11 months to improve my English. When I started at this school, it was really hard for me to have a conversation with people from other countries because my English skills were poor, especially my speaking skills. I didn't have any confidence at all and became homesick twice due to feeling alone. However, I knew that I was there with the purpose of devoting all my time to studying and improving my English, I stayed strong. I committed myself to studying English after school everyday, and as a result I was able to improve my skills and, thankfully, able to make a multitude of friends. I have learned many new things about the cultures and languages of other countries. If my parents hadn't agreed to let me go abroad. I wouldn't have been able to have

so many wonderful experiences. I am so grateful to them.

My story hasn't finished yet. I have begun a new life at university. I might struggle with many things but I will never give up. One of my aims is to achieve a high score in the TOEIC exam before graduating from school. I will do my best!!



## 2018 年度最優秀卒業論文賞受賞者

### 「学生生活の集大成としての卒論」

#### 2018 年 3 月卒業（千頭ゼミ） 石村 未来（明石城西高等学校）

私は、「貧困とはなにか」をテーマに卒業論文を書き上げました。入学前は、「貧困」は「発展途上国で起こっ

ている問題」だと思っていました。しかし、講義を受け、貧困は日本をはじめとする先進諸国でも起こっている

問題だということに気付き、さらに、経済的理由だけではなく、人とのつながりが無い、つまり社会関係資本の不足も、貧困に陥る要因であることを学びました。2回にわたりフィールドワークを行ったラオスは、一人当たりGDPで見ると「最貧困国」に位置づけられていますが、ヒアリング調査や現地での体験から、焼畑を営んでいる農村においても、日本では近年とても弱くなったご近所同士の付き合いが今もしっかりと根付き、「貧困」という言葉からくるイメージよりもはるかに豊かだと感じる光景を目にしました。

この学びと経験から、貧困を経済的側面からだけ考えてはいけな思考、「人との繋がり」が貧困への連鎖を断ち切る一つだと仮定しました。私自身、入学してから大学の友人や教授をはじめ、学外で、数多くの人と一緒にイベントやボランティアを行ったり、セミナーで学んだりと人間関係を構築し、人と繋がったことで、多くの学びや自分の人生におけるチャンスをさらなる選択肢を得ることができ、成長することがで



きました。これらを踏まえ、「人と繋がること」がどのような意味と価値があるのかについて研究を進め、卒論として書き上げました。

卒論の中では、ラオスでの調査以外にも、これまで活動してきた尾張旭市での学習支援のボランティア活動、中津川市加子母でのつながりアンケートの結果なども含まれています。人と繋がることは、状況や環境が違って、誰にとっても必要かつ重要な意味があり、それがあつことで人々の生活に安心感をもたらす、プラスの成長をもたらす価値があることがわかりました。

この4年間で得た学びや経験をもとに、4年間の学生生活の集大成として卒論をまとめることができました。しかし、貧困問題は簡単に解決できるものではありません。私は今年夏から青年海外協力隊員として中米グアテマラで活動する予定です。その活動の中で、「貧困とはなにか」についてさらに学びを深めていき、自分ができることを考えて行動していきたいです。



## 卒業生の活躍

### 「人との繋がり」を日々感じつつ【旅行業】

私は、福祉と英語を学ぶために本学に入学し、4年間で様々な経験をしてきました。大学の学びでは、国際フィールドワークで訪問したマレーシアと、自らの意思で出向いたアメリカでの語学研修です。両国共に英語を主として会話をします。実際に現地に行くことで生の英語を吸収し、異文化にも触れることができました。両国では、各国の友人もでき、現在でも交流を続けています。こうした経験を元に、人との繋がりや国を超えた繋がりを学ぶことができました。また、地元のボランティア活動の一環として、小学生にバスケットボールを教える活動もしていました。この環境で人を育てることの難しさや、コミュニケーションの回り方などに苦労しましたが、子ども達とは良い関係を形成することができ、ここでも人との繋がり大切さを学びました。

2015年3月卒業 堀田 真也 (春日井南高等学校)

大学でのこのような経験は、今の社会人生活の中でも活かされています。私は、名鉄観光サービスで働き



ロシア人の日本観光アテンド時

始め4年目を迎えました。主な仕事は一般法人の旅行の営業をしています。入社前に思い描いていた物とは違い、大変苦勞も多くありますが、旅行という一つのことを通じて、多くの人と関わり繋がりを持つことができている。他の会社では中々経験できないことか

と思います。会社に入ってから、国内外問わず飛び回る日々です。学生時代の学びである「人との繋がり」を沢山感じられる仕事です。私は素晴らしい仕事をさせて頂いていると思います。大学での学びが今に活かされています。

## 自分の可能性【英語教員】



たったひとつ、後輩のみなさんに伝えたいこと、それは「目の前のことに一生懸命取り組む大切さ」です。福井県立丸岡高校から、国際福祉開発学部に入學したとき、ひとつ心に決めたことは、「英語だけは頑張ろう」ということでした。とにかく

英検準1級合格を目標として、英語に取り組みました。3年生の11月に英検準1級に合格しましたが、次の壁は就活でした。自分は何をしたいのだろうと大学3年の終わりになって考えたわけです。教員になろうという思いが出てきたものの、教職課程をとっていませんでした。その思いを実現することは無理でした。そのとき考えたのは、「とりあえず会社の仕組みを学ぶ」ことを目標に、とにかく就職するというものでし

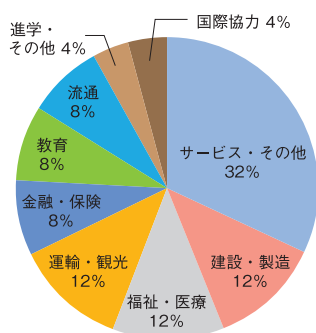
### 2014年3月卒業 辻本 鷹洋 (丸岡高等学校)

た。そして、ある運送会社に入社を決めました。働いてお金を稼ぐということがいかに大変か経験し、誇りをもって働くことの大切さを色々な人との出会いから感じ取りました。そして教員になる思いがますます強くなり、覚悟を決めて正社員の身分をすて、アルバイトをしながら、2015年、通信教育で教員免許取得のため勉強に取り組み始めました。そして2017年、無事教員採用試験に合格することができました。2018年4月1日からは、愛知県内の中学校で教諭としての生活を始めます。これまでの人生を振り返って気付いたことは、目の前のことに一生懸命取り組めば未来は開けてくるということです。無理だと言われても、周りに流されずやりたいことをやれば良いと思います。そして大変だと思ったら仲間に頼るということです。たくさんの経験を持った先生や仲間が優しく教えてくれると思います。自分の可能性を信じて頑張ってください。

## 本学部の進路紹介

### 企業・福祉分野に加え、青年海外協力隊も

巨大なグローバル・アジア市場を舞台として人材の獲得競争が激化する中、卒業生は中部国際空港等のグローバルフィールドでのインターンシップなどで培った国際力を活し、様々な業種の企業に就職しました。



#### 就職特徴

- 国際力を活かした、製造・サービス業、観光業への就職実績。
- 多文化共生社会へ移行する中、グローバル人材を必要とする教育現場や福祉事業所のリーダー
- 異文化理解の知識と開発問題に取り組み、国際力を活かし、青年海外協力隊へ

#### ○主な就職実績

日本生命保険、知多信用金庫、めぐみの農業協同組合、資生堂、大和冷機工業、ファーストリテイリング(ユニクロ)、ANA中部空港、ドリームスカイ名古屋、西日本旅客鉄道、名鉄観光サービス、名鉄バス、名古屋観光ホテル、リゾートトラスト、カリッパ、セブン・イレブン・ジャパン、DCMホールディングス、ドン・キホーテ、愛知県教育委員会、横浜市教育委員会、(学)中野学園オイスカ高等学校、(学)中部第一高等学校、(福)サンライフ、豊橋市職員、東海市職員、常滑市職員等

2018年度  
東海キャンパスのオープンキャンパス予定

6/3日

7/22日

8/26日

10/21日

発行人：日本福祉大学 国際福祉開発学部  
〒477-0031 愛知県東海市大田町川南新田 229  
TEL. 0562-39-3811 FAX. 0562-39-3281

編集人：国際福祉開発学部 学部長 吉村 輝彦、教授 張 淑梅  
お問い合わせ：kokusai@ml.n-fukushi.ac.jp

国際福祉開発学部 ブログ

フェイスブック

